

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・EU 等で下方修正されたものの、ロシア、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。

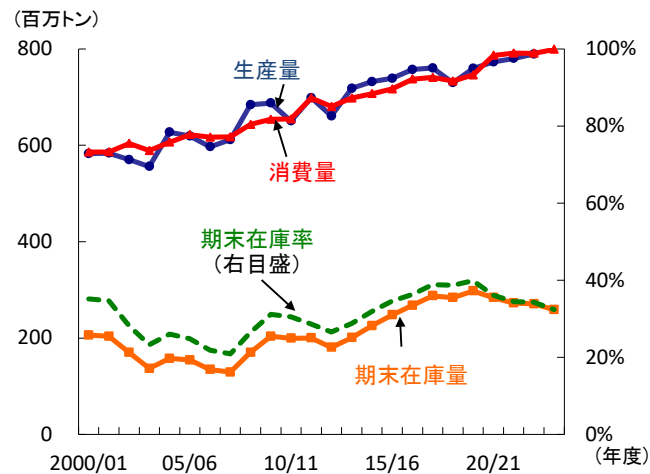
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ウクライナ等で下方修正されたものの、EU、インドネシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・米国等で下方修正されたものの、ウクライナ、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



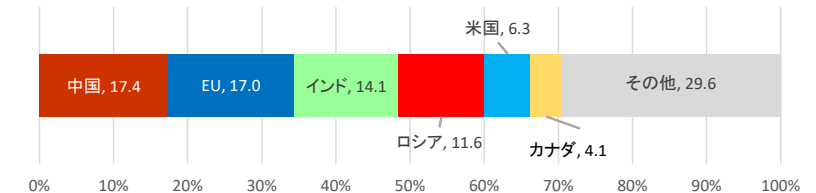
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

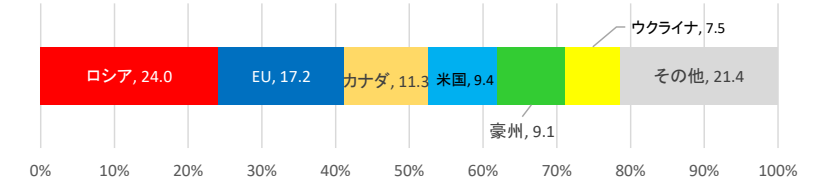
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	780.1	789.2	786.7	1.0	▲ 0.3
消 費 量	791.2	790.8	799.0	1.5	1.0
うち飼料用	160.2	154.0	162.1	1.6	5.3
輸 出 量	202.8	220.2	212.1	1.4	▲ 3.7
輸 入 量	199.9	211.3	211.2	1.3	▲ 0.0
期末在庫量	272.8	271.1	258.8	▲ 0.6	▲ 4.5
期末在庫率	34.5%	34.3%	32.4%	▲ 0.1	▲ 1.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 March 2024)

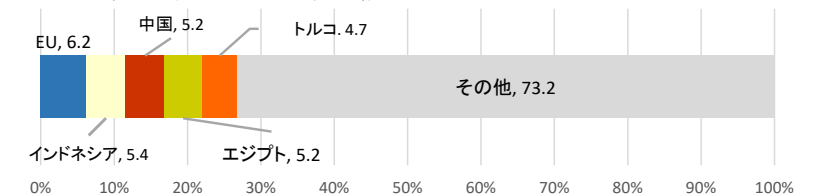
○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(786.7百万トン)(単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(212.1百万トン)(単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(211.2百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の冬小麦は主産地で生育状況が改善

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 49.3 百万トンと、前年度に比べ 9.8%増、過去 5 年平均(48.6 百万トン)に比べ 1.4%増となる見込み。

USDA「Crop Production」(2024.3.8)によれば、冬小麦、春小麦及びデュラム小麦の生産量は、それぞれ 34.0 百万トン(前年度比 13.1%増)、13.7 百万トン(同 4.6%増) 及び 1.6 百万トン(同 7.3%減)の見込み。

USDA によれば、米国の小麦生産量は、2016/17 年度までの 5 年間の平均が 58.7 百万トンだった一方、2017/18 年度以降の平均は 48.5 百万トンに減少した。この要因として収穫面積の減少があり、収穫面積は、2016/17 年度までの 5 年平均は 18.75 百万ヘクタールであった一方、2017/18 年度以降の平均は 15.09 百万ヘクタールに減少した。この収穫面積が減少する理由のひとつは、小麦が、相対的に収益の高いとうもろこしと大豆の輪作に組み込まれたためである。各作物の収益は、2017 年から 2022 年までの間の 1 エーカーあたり小麦は 83.54 ドル増加したのに対し、とうもろこしは 380.69 ドル、大豆は 144.89 ドル増加した。また、とうもろこしや大豆種子の開発や栽培技術の向上等により、乾燥した小麦生産地においても栽培が可能となったため輪作が可能となった。

2024/25 年度の冬小麦の播種面積は、USDA「Winter Wheat and Canola Seedings」(2024.1.12)によれば、播種面積は 13.93 百万ヘクタールと、市場価格の低下を受け 2023/24 年度に比べ 6.2%減少した。

冬小麦の生育状況は 2023 年の秋から改善し、作柄評価を表す「やや良～良」の割合は、主産地であるカンザス州では、2023 年 11 月 26 日の 32 %から 2024 年 2 月 25 日には 57%に増加した。同じく、ネブラスカ州やオクラホマ州でも「やや良～良」の割合は、それぞれ 49%から 60%、53%から 70%に増加した。

生育段階は、2 月の中西部やプレーンズ平原での平年を上回る記録的な暖かさを受け、2 月下旬に冬小麦は再生長を開始した。なお、再生長の時期が早かったため、急激な寒波の影響を受ける可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 19.3 百万トンと、前年度に比べ 6.4%減少し、1972/73 年度以降で最低の見込み。また、2023/24 年度のうち 2023 年 6 月～2024 年 1 月の輸出量は、ロシアからの予想を上回る小麦供給量や、国際市場で価格競争力が乏しいことから 11.7 百万トンと、前年度同期(14.3 百万トン)を 18.2%下回っている。

2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、18.3 百万トンの見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年6月～24年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.8	44.9	49.3	-	9.8
消 費 量	30.4	30.4	31.1	-	2.4
うち飼料用	2.4	2.1	3.3	-	56.5
輸 出 量	21.7	20.7	19.3	▲ 0.4	▲ 6.4
輸 入 量	2.6	3.3	4.0	-	19.0
期末在庫量	18.4	15.5	18.3	0.4	18.1
期末在庫率	35.3%	30.4%	36.3%	1.1	5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.08	-	5.0
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.27	-	4.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(8 March 2024)

図 米国産小麦の生産量、収穫面積、単収の推移

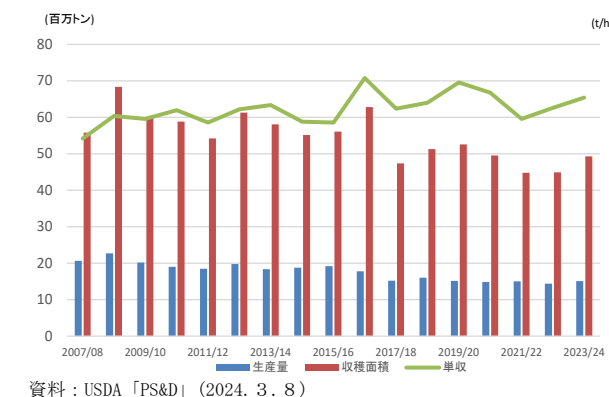
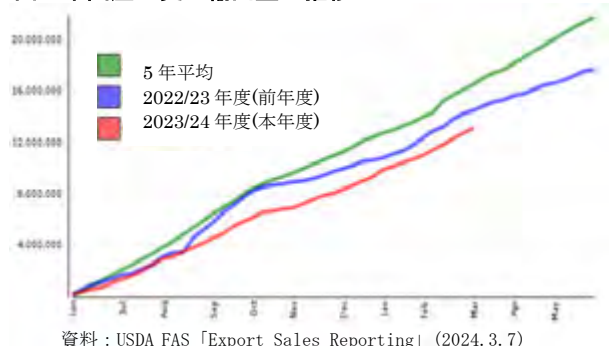


図 米国産小麦の輸出量の推移



＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 34.6 百万トン(前年度比 8.3%増) (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.3.19)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく 32.0 百万トンと、前年度に比べ 6.9%減少するものの、過去 5 年平均に比べ 1.4%増加の見込み。種類別の生産量は、普通小麦は収穫面積が増加したものの、干ばつによる単収の低下を受け 27.9 百万トンと前年度比 2.2%減少も、5 年平均比では 6.3%増加。デュラム小麦は、平原西部の干ばつによる収穫面積の減少と単収の低下を受け 4.0 百万トンと前年度比 30.1%減、5 年平均比 23.1%減の見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2024」(2024.3.11)によれば、2024/25 年度の作付意向面積は、春小麦は 7.78 百万ヘクタール(前年度比 1.2%減)、デュラム小麦は 2.57 百万ヘクタール(同 5.1%増)の見込み。すでに作付けられている冬小麦の面積(0.59 百万ヘクタール)を加えた小麦全体の作付面積は、10.95 百万ヘクタール(前年度比 0.1%増)となる見込み。州別には、前年度に比べ、サスカチュワン州で 0.1%増加、アルバータ州で 2.2%増加の一方、マニトバ州で 0.6%減少する見込み。

AAFC によれば、2024/25 年度の小麦全体の生産量は、作付意向面積調査結果を受け作付面積が増加し、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度比 8.3%増の 34.6 百万トンの見込み。なお、単収は干ばつから回復し例年並みの単収になると仮定している。種類別の生産量は、普通小麦は作付面積の増加を受け前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度比 3.7%増の 28.9 百万トン。デュラム小麦は作付面積の増加を受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度比 39.8%増の 5.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.5 百万トンと、生産量の減少を受け前年度比 8.6%減少の見込み。種類別の輸出量は、普通小麦は前月予測からの変更はなく 20.3 百万トンと、前年度に比べ 1.8%減少。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、生産量減少による輸出余力低下と豊作となったトルコとの競合の強まり等を受け前年度に比べ 36.7%の減少。なお、2023 年 8 月から本年 3 月上旬までの輸出量は、普通小麦が前年度同期比 8 %増加した一方、デュラム小麦は同 41%減少した。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2024 年 1 月の輸出量は、普通小麦が 154.9 万トンで、輸出先国は中国(21.5%)、ナイジェリア(9.4%)、インドネシア(9.1%)の順。デュラム小麦は 34.9 万トンで、アルジェリア(27.1%)、モロッコ(23.1%)、イタリア(20.1%)の順。

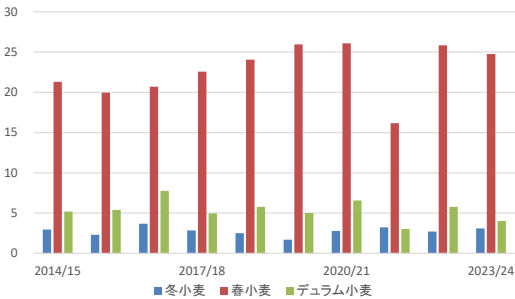
小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年8月～24年7月)			
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	22.4	34.3	32.0 (32.0)	-	▲ 7.0	
消 費 量	10.2	9.5	8.7 (8.6)	-	▲ 7.9	
うち飼料用	5.2	4.3	3.5 (4.1)	-	▲ 18.8	
輸 出 量	15.1	25.6	24.0 (23.5)	-	▲ 6.2	
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1	
期末在庫量	3.7	3.5	3.4 (3.6)	▲ 0.1	▲ 4.0	
期末在庫率	14.5%	10.0%	10.3% (11.1%)	▲ 0.4	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.20	10.08	10.68 (10.68)	-	6.0	
単収(t/ha)	2.44	3.41	2.99 (2.99)	-	▲ 12.3	

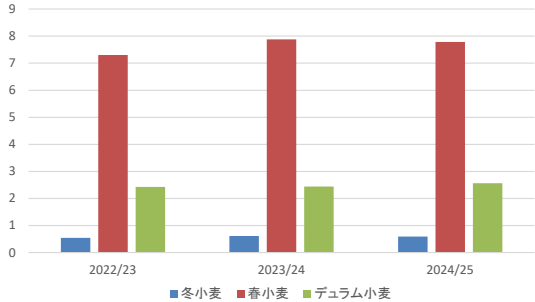
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 March 2024)

図 カナダ産小麦の生産量の推移(冬・春・デュラム小麦)
(百万トン)



資料 AAFC「Outlook for Principal field crops」(2024.3.19)のデータを基に農林水産省で作成

図 カナダ産小麦の作付面積の推移
(百万ヘクタール)



資料 カナダ統計局「Principal field crop areas, 2024」(2024.3.11)のデータを基に農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞2023/24 年度の生産量及び輸出量は 0.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、単収の引上げから前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 26.0 百万トンの見込み。史上最高の前年度に比べ、単収の低下と収穫面積の減少から 35.9%減少するものの、10 年平均(26.5 百万トン)に比べ 1.8%の減少とほぼ平年並みの見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2024.3.5)によれば、2023/24 年度の実生産量は、ニューサウスウェールズ(NSW)州等での生産量の引上げを受け前回の 12 月予測から 0.5 百万トン上方修正され 26.0 百万トンと、史上最高の前年度(40.5 百万トン)から 36.0%減少するものの、過去 10 年平均比(26.5 百万トン)2.0%の減少に留まる見込み。

2023/24 年度の生育状況は、主要産地である NSW 州の南部及びサウスオーストラリア(SA)州等で生育にとって重要な時期に降雨に恵まれたものの、ウェスタンオーストラリア(WA)州及び NSW 州北部では乾燥天候が続き単収が低下した。なお、収穫は、WA 州等では生育シーズン終盤の高温・乾燥天候の影響を受け例年よりも早く終了。また、SA 州の一部等では、11 月の降雨を受け収穫は遅れた。

品質は、WA 州及び SA 州ではラニーニャが生じた過去 3 年間に比べ高タンパク質含有小麦の比率が高くなった一方、NSW 州等では収穫期の降雨を受け品質が低下した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、生産量の上方修正を受けた輸出余力の増加から、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 20.0 百万トンの見込み。過去最高の前年度に比べ、乾燥天候による生産量の減少から 37.1%減少するものの、10 年平均(18.9 百万トン)比 5.8%増加。

ABARES によれば、特に輸出量が多い WA 州と SA 州での生産量の減少を受け、2023/2024 年度は 21.8 百万トンと前年度に比べ 32.4%減少するものの 10 年平均(18.6 百万トン)を 17.2%上回る見込み。

前年度の史上最高の輸出量から減少したものの、2022/23 年度の記録的な生産量で輸出余力があるため、今後も輸出量は 2022/23 年までの 10 年間平均を上回る水準が続くと予想されており、2024/25 年度の輸出量は 20.0 百万トンとなる見込み。なお、輸出先については、人口と所得の増加に伴い食料需要が増加しているアジア市場が豪州産小麦の最大の輸出市場であり続ける可能性が高い。

現地情報会社によれば、2023/24 年度(2023 年 10 月～2024 年 9 月)の 1 月輸出量は 272.1 万トンと前年度に比べ 16.3%減少。輸出先国は、中国(36.1%)、インドネシア(20.1%)、フィリピン(8.4%)の順で、アジア市場向けが多い。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年10年～24年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	36.2	40.6	26.0 (25.5)	0.5	▲ 35.9
消 費 量	8.5	8.0	7.0 (7.2)	-	▲ 12.5
うち飼料用	5.0	4.5	3.5 (3.5)	-	▲ 22.2
輸 出 量	27.5	31.8	20.0 (19.1)	0.5	▲ 37.1
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.5	4.4	3.6 (2.9)	-	▲ 18.3
期末在庫率	9.6%	11.0%	13.2% (11.0%)	▲ 0.2	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.73	13.05	12.50 (12.50)	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	2.85	3.11	2.08 (2.04)	0.04	▲ 33.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

図 豪州の州別小麦生産量の推移

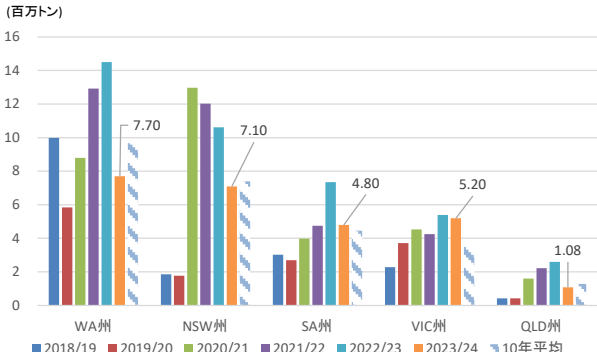


表 豪州産小麦の輸出量の推移

(輸出量：万トン、シェア：%)

2024年1月			2023年10月～2024年1月			2022年10月～2023年1月		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	98.2	36.1	中国	169.0	25.4	中国	260.1	26.8
インドネシア	54.8	20.1	インドネシア	108.3	16.3	インドネシア	171.7	17.7
フィリピン	22.8	8.4	フィリピン	70.4	10.6	フィリピン	108.3	11.2
日本	21.3	7.8	ベトナム	50.5	7.6	韓国	95.6	9.9
韓国	11.4	4.2	日本	49.9	7.5	ベトナム	59.0	6.1
タイ	10.9	4.0	イエメン	41.3	6.2	日本	41.5	4.3
その他	52.7	19.4	その他	175.0	26.3	その他	234.2	24.1
計	272.1	100.0	計	664.4	100.0	計	970.4	100.0

資料：豪州統計局の資料をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2023/24 年度の輸入量は史上第 1 位の 13.0 百万トン

【生育・生産状況】欧州委員会(2024.2.29)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 133.7 百万トンと、前年度比で 0.5%減少も、過去 5 年平均比で 0.8%増加する見込み。

小麦全体のうち普通小麦は、前月予測に比べ 0.3 百万トン下方修正され 126.6 百万トンと、前年度比で 0.2%減少し、5 年平均比で 1.5%増加。また、デュラム小麦は、0.1 百万トン上方修正され 7.1 百万トンと、前年度比で 6.3%減少し、5 年平均比でも 10.2%減少する見込み。

欧州委員会によれば、2024/25 年度の冬小麦は、2 月～3 月上旬にかけて欧州の大半で温暖な天候が続いたため、欧州南部の大部分やフランス北東部、ドイツ、ルーマニア北東部の一部で再生長が開始された。生育は平年と比較して最大 4 週間早い。なお、再生長を開始した冬小麦は耐寒性を失うため、今後の寒波の影響が懸念されるものの、中長期的予報によれば温暖な天候が続く見込みから、その可能性は低いとみられる。また、欧州北西部等では降雨量が過剰であり生産量への影響が懸念されている。

フランスでは、2 月下旬から 3 月初旬にかけての降雨で土壌水分量は飽和状態となり、南西部では洪水の発生や、過剰な土壌水分量で施肥等の農作業が妨げられた。フランスアグリメールによれば、3 月 4 日時点の生育状況を示す「良～優良」の割合は、普通小麦は 68%、デュラム小麦は 73%と、それぞれ前年度の 95%、91%を下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 13.0 百万トンと、前年度及び過去 5 年平均をそれぞれ 7.4%、94.4%上回り史上 1 位となる見込み。

2023/24 年度のうち 7 月から 12 月までの輸入量は、普通小麦が 480.1 万トン、デュラム小麦が 157.6 万トン。輸入先国は、普通小麦はウクライナ(62.6%)、カナダ (9.9%)、デュラム小麦はトルコ (36.0%)、ロシア(25.8%)の順で、安価なウクライナ産小麦の需要が持続している。輸入量増加の背景には、輸入量が減少しているとうもろこしの代替として相対的に安価な小麦の飼料需要が増加していることがある。

輸出量は前月予測からの変更はなく 36.5 百万トン(前年度比 4.0%増、5 年平均比 13.2%増)の見込み。

欧州委員会によれば、12 月の輸出量は普通小麦が 321.5 万トン(5 年平均比 13.0%増)、デュラム小麦は 8.4 万トン(同 2.4%増)。輸出先国は、普通小麦が中国(21.5%)、アルジェリア(14.4%)、モロッコ(8.5%)の順でアフリカ諸国向けが多いが、10 月、11 月はエジプト向けが、12 月は中国向けが約 20%を占めた。デュラム小麦はチュニジア(57.9%)、トルコ(6.7%)、モロッコ(6.5%)の順でアフリカ、中東向けが多い。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	138.2	134.2	133.7	(133.1)	▲ 0.4	▲ 0.4
消 費 量	108.3	108.0	111.5	(109.9)	1.0	3.2
うち飼料用	45.0	44.0	47.0	(45.7)	1.0	6.8
輸 出 量	31.9	35.1	36.5	(34.3)	-	4.0
輸 入 量	4.6	12.1	13.0	(10.4)	1.0	7.4
期末在庫量	13.3	16.5	15.2	(17.8)	▲ 0.4	▲ 8.2
期末在庫率	9.5%	11.5%	10.3%	(12.4%)	▲ 0.3	▲ 1.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.29	24.38	24.22	(23.88)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.69	5.50	5.52	(5.57)	▲ 0.01	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

図 EU の小麦輸入量の推移

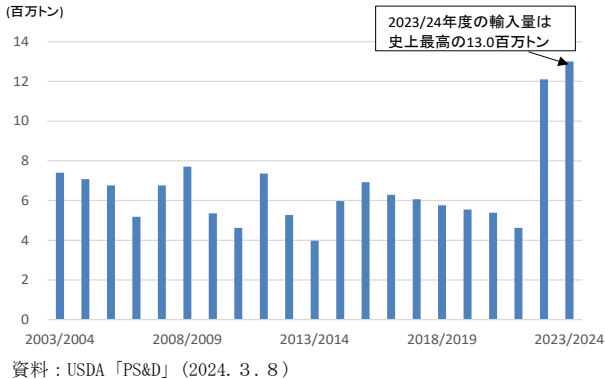


表 EU の小麦輸入量と輸入元国(2023 年 7 月～12 月)

普通小麦			デュラム小麦		
国名	輸入量(万トン)	シェア(%)	国名	輸入量(万トン)	シェア(%)
ウクライナ	300.7	62.6%	トルコ	56.7	36.0%
カナダ	47.7	9.9%	ロシア	40.6	25.8%
モルドバ	36.2	7.5%	カナダ	28.7	18.2%
ロシア	28.0	5.8%	カザフスタン	19.3	12.2%
英国	26.8	5.6%	米国	9.8	6.2%
その他	40.8	8.5%	その他	2.6	1.6%
計	480.1	100.0%	計	157.6	100.0%

資料：EU 委員会「EU Crops Market Observatory」(2024. 2. 16)をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の輸入量は輸入ペースの低下を受け下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、136.6 百万トンの見込み。収穫面積は増加したものの単収の低下から、史上最高の前年度(137.7 百万トン)に比べ、生産量は 0.8%減少した。なお、過去 5 年平均の 134.8 百万トンを 1.3%上回る。2023/24 年度は、収穫前に豪雨に見舞われ、生産量が減少するとともに生産量に占める飼料用グレード小麦の割合が増加した。

中国国家気象センター「中国気象農業報道」(2023.3.5)によれば、2024/25 年度の大部分の冬小麦は、播種以来、平年に比べ気温が高かったことから生長が早まっている。また、初期生育期、休眠期及び再生長期を通じて、適切な日照及び土壌水分状態に恵まれている。なお、2 月下旬、江蘇省等の江淮地区等で、降雨及び降雪により一部で凍害が生じたものの、影響は比較的軽微であった。

2 月下旬から 3 月初めの生育段階は、河北省、安徽省、江蘇省等では越冬期、河南省、山東省等では再生長期、湖北省では節間伸長期に入っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量のうち飼料用消費量は、2023 年 5 月の降雨被害による品質低下に伴う飼料用グレード小麦の増加を受け飼料用需要が増加し 37.0 百万トンと、前年度に比べ 12.1%増加する見込み。

2023/24 年度(2023 年 7 月～2024 年 6 月)の輸入量は、輸入ペースが低下していることを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 11.0 百万トンと、前年度に比べ 17.2%減少の見込み。なお、2023 年 10 月から 12 月にかけて、中国は米国産ソフトレッドウインター(SRW)の輸入契約を増加させたものの、最近その一部をキャンセルしている。

中国農業農村部「中国農産品供需形勢分析月報」によれば、2023 年の小麦及び小麦製品の輸入量は、国際小麦価格の低下と高品質小麦の国内需給の逼迫の影響を受け、大幅に増加した。なお、中国は、豪雨による生産量の低下と品質の低下を受け、食用の小麦を輸入しているとみられる。

中国税関統計によれば、2023 年 1 月から 12 月までの輸入量合計は 1,210.4 万トンで、前年に比べ 13.7%増加。同期間の輸入先国のシェアは、豪州 59.5%(前年同期 60.2%)、カナダ 19.6%(同 16.8%)、フランス 6.8%(同 16.0%)、米国 6.7%(同 5.9%)の順で、豪州とカナダの 2 か国で輸出シェアの 79%を占めている。前年に比べると、カナダ及び米国、カザフスタンからの輸入シェアが増加した一方、フランスのシェアが低下したが、依然として豪州の輸入シェアは約 60%と高い。

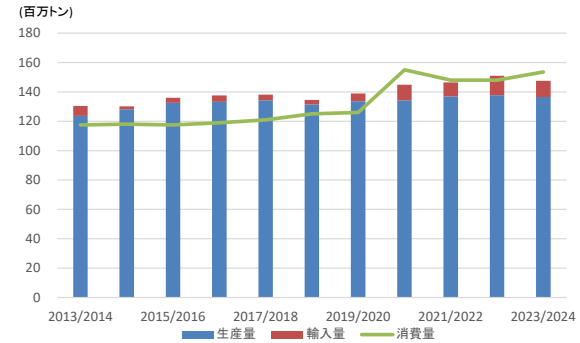
小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位: 百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23 年 7 月～24 年 6 月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	137.7	136.6 (136.6)	-	▲ 0.8
消 費 量	148.0	148.0	153.5 (149.5)	-	3.7
うち飼料用	35.0	33.0	37.0 (32.0)	-	12.1
輸 出 量	0.9	1.0	0.9 (1.2)	-	▲ 5.3
輸 入 量	9.6	13.3	11.0 (12.7)	▲ 1.0	▲ 17.2
期末在庫量	136.8	138.8	132.0 (139.0)	▲ 1.0	▲ 4.9
期末在庫率	91.9%	93.2%	85.5% (92.3%)	▲ 0.6	▲ 7.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.63 (23.63)	-	0.5
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.78 (5.78)	-	▲ 1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

図 中国の小麦生産量、消費量、輸入量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024. 3. 8) をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量及び輸入先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2023 年 12 月			2023 年 1 月～2023 年 12 月		
国 名	輸入量	シェア	国 名	輸入量	シェア
カナダ	34.9	57.6	豪州	720.3	59.5
豪州	15.2	25.1	カナダ	237.5	19.6
ロシア	3.9	6.4	フランス	82.4	6.8
米国	3.1	5.1	米国	81.4	6.7
カザフスタン	2.9	4.8	カザフスタン	54.1	4.5
その他	0.6	1.0	その他	34.7	2.9
計	60.6	100.0	計	1,210.4	100.0

資料: 中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2023/24 年度の輸出量は史上最高の 51.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、91.5 百万トンの見込み。史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ 0.5%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 15.0%上回り史上 2 位となる見込み。

種類別の生産量は、冬小麦は前月予測からの変更はなく 64.0 百万トン、春小麦は収穫面積の増加と単収の上昇から前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 27.5 百万トン(同 14.6%増)の見込み。春小麦の単収は、生育期の乾燥天候の影響や収穫期の降雨の影響を受けずに史上最高となった。

ロシア連邦統計庁等によれば、2023/24 年度の冬小麦の播種面積は前年度同期(16.72 百万ヘクタール)を下回る 15.69 百万ヘクタール。

ロシア気象センターによれば、2024 /25 年度の冬穀物の生育状況は、ロシアヨーロッパ部北部では気象条件は平年並みであったものの、一部圃場で氷層が形成されており不良。ヨーロッパ部南部では気温の上昇とともに再生長が始まった。アジア部では、一部地域でスノーカバー(作物が積雪により外気の寒さから守られる)が不十分であったため作物への影響が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出価格は関税低下等を受け 199 ドル/トンと、2020 年以降最低となり、主要輸出国(EU、カナダ、米国、豪州、アルゼンチン)中で最も競争力がある。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 51.0 百万トン。輸出余力が潤沢で好調な輸出ペースを受け史上最高であった前年度(47.5 百万トン)を更に 7.4%上回る見込み。

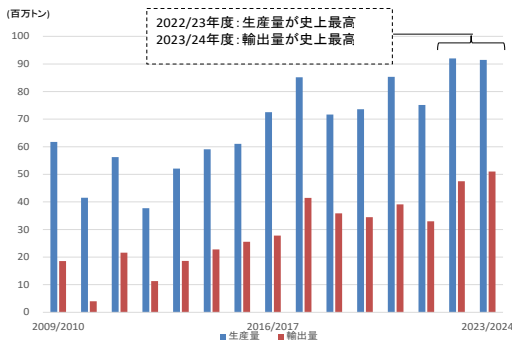
現地情報会社等によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～本年 2 月のロシアの輸出量は 3,501.4 万トンと、過去最高であった 2022/23 年度の同期間(3,118.1 万トン)を 12.3%上回った。また、2 月の輸出量は 397.1 万トンと、過去 3 年平均(325.9 万トン)を 21.8%上回った。2 月の輸出先国は、エジプト(23.5%)、トルコ(10.3%)、パキスタン(8.0%)の順。なお、デュラム小麦は欧州への輸出量増加で国内価格が上昇したため、2023 年 12 月～本年 5 月まで禁輸措置を導入。現地情報会社のデータにより、2021/22 年度(ウクライナ侵攻前)及び 2023/24 年度(ウクライナ侵攻後)の 7 月～2 月でロシアの輸出先シェアを比較すると、2021/22 年度は中東(41.6%)、サブサハラ(17.5%)、北アフリカ(17.4%)の順、2023/24 年度は中東(26.4%)、北アフリカ(23.3%)、サブサハラ(14.4%)の順となり、中東が低下し、北アフリカが伸びている。また、輸出量の差では、南アジアで 403.0 万トン増、北アフリカで 366.9 万トン増の一方、中東で 148.3 万トン減少している。

小麦ーロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	75.2	92.0	91.5 (91.0)	0.5	▲ 0.5	
消費量	41.8	42.3	43.0 (43.6)	-	1.8	
うち飼料用	18.5	19.0	20.0 (19.0)	-	5.3	
輸出量	33.0	47.5	51.0 (50.4)	-	7.4	
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-	
期末在庫量	12.1	14.6	12.4 (12.1)	0.5	▲ 15.0	
期末在庫率	16.2%	16.3%	13.2% (12.9%)	0.5	▲ 3.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	28.83 (29.00)	0.03	▲ 0.6	
単収 (t/ha)	2.72	3.17	3.17 (3.14)	0.01	-	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

図 ロシアの小麦生産量と輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 3. 8)

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国 (輸出量：万トン、シェア：%)

2021/22(ウクライナ侵攻前)			2023/24(ウクライナ侵攻後)		
地域名	輸出量	シェア	地域名	輸出量	シェア
中東	1,076.3	41.6	中東	928.0	26.4
サブサハラ	453.8	17.5	北アフリカ	817.9	23.3
北アフリカ	451.0	17.4	サブサハラ	506.3	14.4
旧ソ連	381.0	14.7	南アジア	465.4	13.2
欧州	112.0	4.3	旧ソ連	296.6	8.4
南アジア	62.4	2.4	東南アジア	162.5	4.6
南米	12.6	0.5	欧州	133.7	3.8
その他	38.7	1.5	その他	207.1	5.9
計	2,587.8	100.0	計	3,517.5	100.0

2023・24年度の地域内主出先国シェア
中東地域 トルコ(51.9%)、イエメン(13.1%)、サウジアラビア(11.6%)
北アフリカ地域 エジプト(58.8%)、アルジェリア(20.7%)、リビア(10.3%)
サブサハラ 南アフリカ(0.6%)、タンザニア(0.5%)、スーダン(0.4%)

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の輸出量は前月予測から 1.0 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく23.4百万トンの見込み。前年度に比べ、収穫面積は減少も、良好な天候による単収の上昇を受け、前年度(21.5百万トン)を8.8%上回るものの、5年平均(26.8百万トン)に比べ12.8%下回る。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の冬小麦の播種面積は4.16百万ヘクタールと、前年度同期(3.64百万ヘクタール)を14.3%上回った(2023年11月27日現在)。なお、ロシアのウクライナ侵攻前の2021年の播種面積(6.25百万ヘクタール)に比べると33.4%の減少となる。

2024年2月は、国内全体で非常に温暖な天候となった。また、降水量は南部で平年比を下回ったものの、大部分の地域で平年を上回った。この温暖な天候と適度な降水量を受け、2月下旬に南部及び西部、中央部の一部で2024/25年度の冬作物が徐々に再生長を開始した。生育段階は、大部分の圃場で分けつ期、一部で3葉形成期を迎えている。一方、北部から中央部の圃場では引き続き越冬期となっている。

また、同省等によれば、2024/25年度の春小麦の播種が開始されており、播種面積は3月7日現在で、4.3千ヘクタールと前年度同時期の6.7千ヘクタールを下回っている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、主にEU及びアジア向けの輸出が堅調なことから、前月予測から1.0百万トン上方修正され16.0百万トンとなるものの、前年度に比べ6.5%減少、5年平均(18.0百万トン)に比べ11.0%減少の見込み。黒海のオデーサ港等の主要輸出港からのアフリカ及びアジア向け輸出が黒海穀物イニシアティブの履行停止の影響を受け輸出量は前年度に比べ減少するものの、2023年8月の臨時回廊の設置で輸出量は増加している。

ウクライナ政府等によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年2月までの輸出量は1,177.2万トン(ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度同時期の14.1%減)。この間、黒海穀物イニシアティブの履行されていた7月の輸出量は82.4万トンに減少したものの、臨時回廊の設置を受け、輸出量は増加傾向となり2024年2月の輸出量は255.5万トンとなった。同期間の輸出先国は、スペイン(33.4%)、ルーマニア(8.5%)、エジプト(8.5%)の順。スペイン向けシェアが高い要因は、同国の乾燥天候による生産量の減少と飼料用小麦の需要増加、ウクライナ産小麦の飼料用グレードの増加等による。

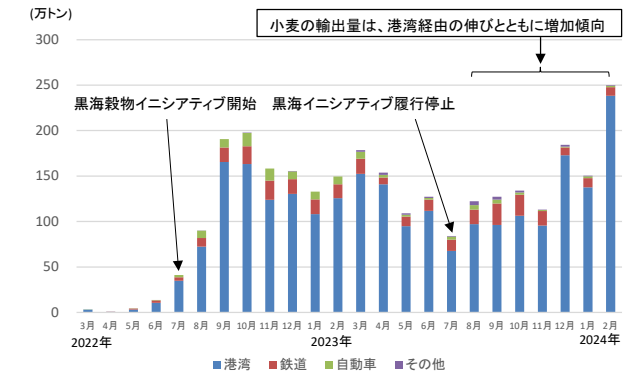
また、輸送手段別の小麦輸出量は、船舶95.4%、鉄道3.8%、自動車0.6%と船舶輸送のシェアが増加している。小麦の安定的な供給の維持には臨時回廊が支障なく機能し続けることが条件となっている。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）
(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	33.0	21.5	23.4	(28.7)	-	8.8
消 費 量	9.0	7.7	7.7	(13.9)	▲ 0.3	-
うち飼料用	3.0	2.7	2.7	(3.0)	▲ 0.3	-
輸 出 量	18.8	17.1	16.0	(15.5)	1.0	▲ 6.5
輸 入 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	33.3
期末在庫量	6.8	3.5	3.3	(2.3)	▲ 0.7	▲ 6.3
期末在庫率	24.3%	14.1%	13.8%	(7.7%)	▲ 3.5	▲ 0.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.41	5.60	5.05	(6.32)	-	▲ 9.8
単収(t/ha)	4.45	3.84	4.63	(4.54)	-	20.6

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

図 ウクライナ産小麦の輸送手段別輸出量の推移



資料:ウクライナ農業政策食料省及びインフラ省、現地情報会社のデータ
をもとに、農林水産省で作成

写真 2024/25 年度の冬小麦の圃場(2024. 3. 1)



冬小麦は順調に越冬し、「分けつ期」を迎えている。生育状況はおおよそ「良好」か「並」の状態だが、今後、夜間の厳しい寒さに見舞われる可能性がある。
今年度は冬小麦に可能な限り資金を投入したが、価格が大幅に下落。農業生産者の多くは2年続けて小麦の播種を諦め、より収益性の高い作物に切替えている。

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・アルゼンチン等で上方修正されたものの、南アフリカ、ウクライナ、メキシコ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

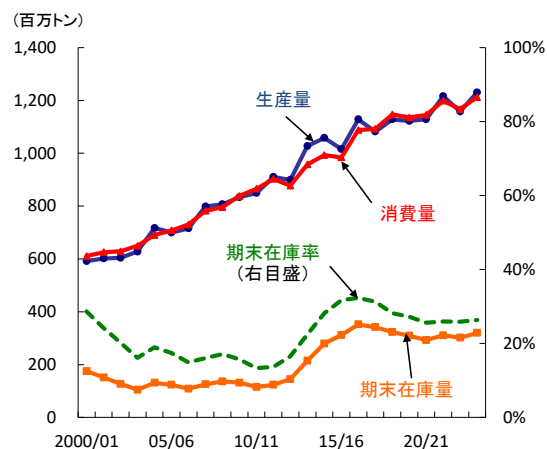
消費量 前年度比  前月比 

・EU、南アフリカ等で下方修正されたものの、ブラジル、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・南アフリカ等で下方修正されたものの、ウクライナ、アルゼンチンで上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2024.3.8）をもとに農林水産省にて作成

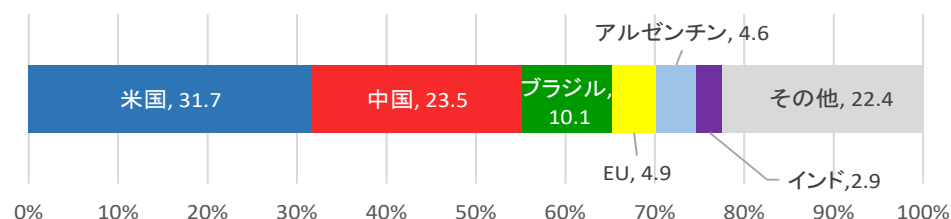
◎世界のとうもろこし需給

（単位：百万トン）

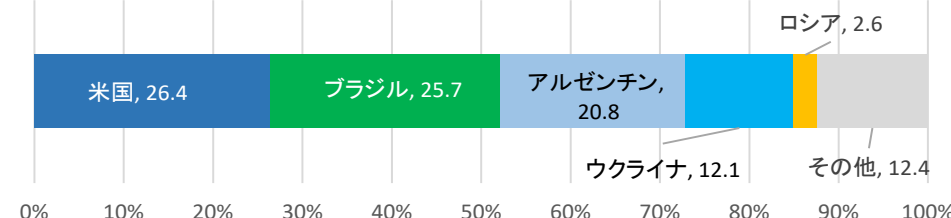
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,216.0	1,157.5	1,230.2	▲ 2.3	6.3
消 費 量	1,198.3	1,166.6	1,212.2	1.5	3.9
うち飼料用	743.3	729.6	761.6	▲ 0.1	4.4
輸 出 量	206.4	180.2	202.3	1.5	12.3
輸 入 量	184.5	172.6	189.5	▲ 0.3	9.8
期末在庫量	310.7	301.6	319.6	▲ 2.4	6.0
期末在庫率	25.9%	25.9%	26.4%	▲ 0.2	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 March 2024)

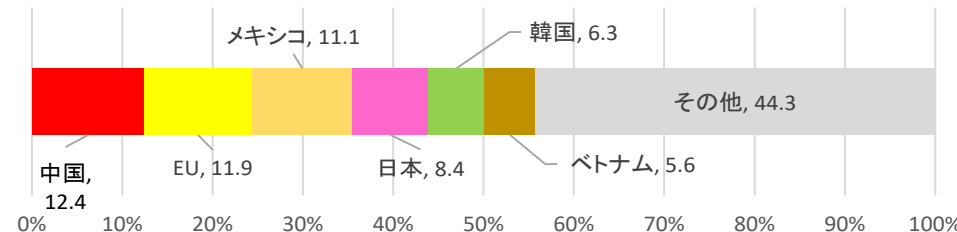
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,230.2 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(202.3 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(189.5 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積の増加等により、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加（対前年度比9.9%増）や単収の増加（同2.2%増で史上最高）を受け、前年度より12.4%増の389.7百万トンと史上最高の見通し。収穫面積の増加については、肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けて、とうもろこしを選択した農家が増加したことも要因とみられる。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ3.4%増の316.4百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国際的なとうもろこし価格の低下に伴う需要増加を受けた輸出の回復期待から、前年度より26.4%増の53.3百万トンの見込み。他方で、2023/24年度に輸入が増加すると見込まれる中国への輸出をめぐり、前年度が史上最高の生産見通しとなったブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.3.8）によれば、本年3月の米国産の輸出価格は、増産による国内供給の増加と、南米産やウクライナ産の供給増の影響を受けた米国産需要の低下を受け、3月6日現在、前月から10ドル/トン低下し188ドル/トン。なお、2023年9月～2024年2月の輸出量は2,309万トンと、前年同時期の1,479万トンより56.1%増加。輸出先国の内訳は、中国（824.7万トン）、メキシコ（710.6万トン）、コロンビア（198.6万トン）の順となっている。干ばつによる減産に加え飼料需要が増加したメキシコ向けの輸出量が増加している。

USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より59.7%増の55.2百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より5.0ポイント上昇し14.9%と、過去3年平均（9.2%）を上回っている。

とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

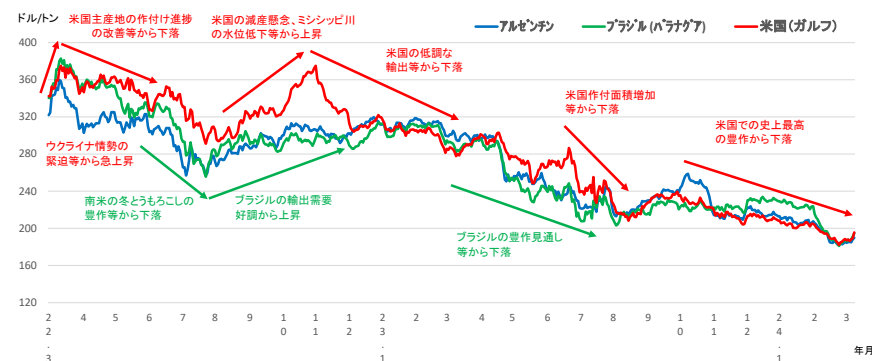
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	381.5	346.7	389.7	－	12.4
消費量	315.7	306.0	316.4	－	3.4
うち飼料用	144.0	139.4	144.2	－	3.4
エタノール用等	135.1	131.5	136.5	－	3.8
輸 出 量	62.8	42.2	53.3	－	26.4
輸 入 量	0.6	1.0	0.6	－	▲ 34.7
期末在庫量	35.0	34.6	55.2	－	59.7
期末在庫率	9.2%	9.9%	14.9%	－	5.0

（参考）

収穫面積(百万ha)	34.39	31.85	35.01	－	9.9
単収(t/ha)	11.09	10.89	11.13	－	2.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（8 March 2024）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量は高温乾燥により減少

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最大の豊作となった前年度より 9.5%減の 124.0 百万トンの見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.3.12）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 14.5%減の 112.8 百万トンの見込み（P.23 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での播種期の降雨過多、生殖成長期の乾燥の影響等により、生産量が引き下げられた。冬とうもろこしも、中西部での高温乾燥の影響を受け、前月から下方修正された。

USDA によれば、夏とうもろこしが主に栽培されている南部では、3月上旬、生育に適した降雨と夏の温暖な気候からとうもろこしの成熟が急速に進んだ。南部のリオ・グランデ・ド・スール州における夏とうもろこしの収穫進捗率は3月7日時点で70%と、前年同時期（61%）より進んでいる。

一方、冬とうもろこしが主に栽培される中西部のマット・グロッソ州において、大豆の収穫が順調に進展し、その後作付けされる冬とうもろこしの作付け進捗率は3月8日時点で98%と、前年同時期（96%）を上回っている。3月上旬現在、生育に適した降雨量と良好な日照条件から定着状況は良好。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、豊作の 2022/23 年産が国内消費に向けられる見通しを受けて、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、飼料用及び加工用ともに需要増加等から、前年度より 2.6%増の 78.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度より 4.2%減の 52.0 百万トンとなり、米国に次ぐ世界第2位の輸出国に後退する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～2 月の輸出量は 6.6 百万トンで、前年度同時期比 22%減。内訳は、中国（1.4 百万トン）、エジプト（0.7 百万トン）、イラン（0.6 百万トン）の順。2022 年 11 月末以降に開始された中国向けとうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡した 2023 年 7 月以降本格化しており、一部の港で滞船が見られたものの概ね順調に輸出されており、2023 年の中国向け輸出量は、16.2 百万トンと前年（2.1 百万トン）より大幅に増加している。

とうもろこし－ブラジル

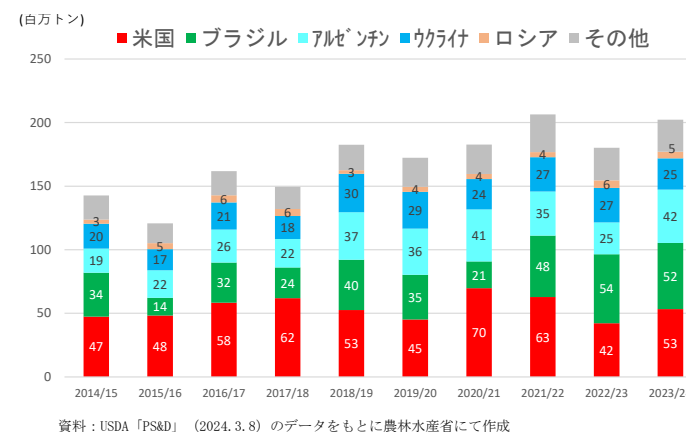
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約8割、夏とうもろこしは約2割）

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 （見込み）	2023/24（24年3月～25年2月）		
			予測値、（ ）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	116.0	137.0	124.0（119.7）	-	▲ 9.5
消 費 量	70.5	76.5	78.5（80.6）	1.0	2.6
うち飼料用	59.5	63.5	64.5（65.5）	1.0	1.6
輸 出 量	48.3	54.3	52.0（47.0）	-	▲ 4.2
輸 入 量	2.6	1.3	1.2（2.2）	-	▲ 7.7
期末在庫量	4.0	11.5	6.2（4.6）	0.2	▲ 46.2
期末在庫率	3.3%	8.8%	4.7%（3.6%）	0.1	▲ 4.0
（参考）					
収穫面積（百万ha）	21.80	22.40	21.90（21.16）	-	▲ 2.2
単収（t/ha）	5.32	6.12	5.66（5.66）	-	▲ 7.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
（ブラジルは減産により世界第2位の輸出国に後退）



< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、収穫面積の増加を受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、高温・乾燥により生産量が激減した前年度に比べ降雨に恵まれ単収が増加することを受けて、大きく回復する見通しから、55.6%増の 56.0 百万トンで史上最高となる見込み。

一方、アルゼンチン政府によれば、2 月 14 日時点でとうもろこしの作付けは完了。

ブエノスアイレス取引所週報 (2024.3.14) によれば、3 月上旬降雨があり、生育状況は改善している。作柄は、平年並み～良が 87%であり、開花や結実が順調に進んでいる。収穫進捗率は 3%と、収穫が開始されているものの、降雨を受けて収穫は遅れ気味となっている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 20.5%増の 14.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、昨年 10 月から本年 2 月までの好調な輸出ペースを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、供給余力が出てきていることに加え、ペソ安により輸出競争力が高まる見通しから、前年度より 68.0%増の 42.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～12 月の輸出量は 24.0 百万トンで、2022/23 年度産の減産を受け、前年度同期比 (35.7 百万トン) で 33%減となった。輸出先の内訳は、ベトナム (321.9 万トン)、ペルー (299.2 万トン)、アルジェリア (229.4 万トン) の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定しており、2022/23 年度のとうもろこし輸出上限数量は 20 百万トン。

2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル=350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル=800 ペソとした。なお、「OIL WORLD Weekly」(2024.2.2) によれば、政府は、とうもろこしの輸出税を 12%から 15%に引き上げることを検討していたものの、農業団体等の強い抵抗を受けて断念し、当面の間 12%のまま維持される見通し。ペソの更なる切下げも見送られている。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.5	36.0	56.0 (61.0)	1.0	55.6
消 費 量	14.2	11.7	14.1 (20.6)	-	20.5
うち飼料用	10.1	7.5	9.8 (15.5)	-	30.7
輸 出 量	34.7	25.0	42.0 (40.9)	1.0	68.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	1.8	1.1	1.0 (3.8)	-	▲ 7.2
期末在庫率	3.7%	3.0%	1.8% (6.2%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	6.75	7.00 (8.20)	0.10	3.7
単収(t/ha)	6.97	5.33	8.00 (7.44)	0.03	50.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)

写真: 北部サンタフェ州の早植えとうもろこしの圃場風景 (2024 年 2 月 27 日撮影)



本圃場のとうもろこしの生育ステージは成熟期にある。
収穫作業は、3 月中旬を予定している。
予想単収は 9～11 トン/ヘクタールの見込み。

< 中国 > 単収及び収穫面積の増加を受け、生産量は史上最高

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、中国国家統計局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて、前年度より4.2%増の288.8百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家統計局「2023年糧食生産量データ」(2023.12.11)によれば、2023/24年度の実産量は前年より4.2%増の2億8,884万トン。播種面積が前年より2.7%増加したことに加え、単収が前年より1.5%増加したことが増産の要因。なお、東北地区の一部で降雨過多の影響があったものの、他の地域では天候に恵まれた。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこし国際価格の低下等から、前年度より2.3%増の306.0百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家統計局(2024.1.17)によれば、2023年の食肉生産量は9,641万トンと、前年同時期比で4.5%増。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国際価格が国内価格を下回っているほか、特に2022年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より22.9%増の23.0百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023年1～12月の輸入量は、前年より30.3%増の2,687.6万トン。内訳は、ブラジル(1,255.9万トン)、米国(714.1万トン)、ウクライナ(550.4万トン)の順。2023年12月のブラジル産輸入量は401.1万トンと前月比で34.9%増。2022年11月以降開始されたブラジル産とうもろこしの輸入が、2022/23年度の実産量の豊作による安価な輸出価格を受けて大幅に増加し、第1位の輸入先国となった。一方で、米国産の輸入量は前年より52.0%減の714万トンと、大幅に減少した。ウクライナ産の輸入量は前年より4.6%増の550.4万トンと、引き続き堅調に推移している。

USDAによれば、2023/24年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、国内産の増産と輸入の増加により前年度より2.8%増の211.9百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	272.6	277.2	288.8 (288.8)	-	4.2	
消 費 量	291.0	299.0	306.0 (311.9)	-	2.3	
うち飼料用	209.0	218.0	225.0 (210.0)	-	3.2	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	21.9	18.7	23.0 (20.0)	-	22.9	
期末在庫量	209.1	206.0	211.9 (172.9)	-	2.8	
期末在庫率	71.9%	68.9%	69.2% (55.4%)	-	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	44.22 (44.20)	-	2.7	
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.53 (6.53)	-	1.4	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 February 2024)

表: 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量:万トン、シェア:%)

2023年12月			2023年1月～2023年12月			2022年1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	401.1	81.0	ブラジル	1,255.9	46.7	米国	1,487.8	72.1
米国	64.7	13.1	米国	714.1	26.6	ウクライナ	526.4	25.5
ウクライナ	13.8	2.8	ウクライナ	550.4	20.5	ミャンマー	19.4	0.9
ミャンマー	5.3	1.1	ブルガリア	74.1	2.8	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	4.7	1.0	ミャンマー	34.3	1.3	ロシア	9.3	0.5
ロシア	2.8	0.6	ロシア	29.3	1.1	ラオス	5.2	0.2
その他	2.6	0.5	その他	29.5	1.1	その他	0.6	0.0
計	495.0	100	計	2,687.6	100	計	2,063.4	100

資料: 中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成。

＜ ウクライナ ＞ 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 29.9%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、直近の収穫結果を受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度より収穫面積が減少（前年度比 6.2%減）も、天候に恵まれ単収が上昇（前年度比 16.3%増）したことを受け、前年度より 9.3%増となった。ただ、侵攻前の史上最高の豊作だった 2021/22 年度比では 29.9%減の 29.5 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、3 月 7 日現在、収穫進捗率は 93%と、前年度同期（96%）よりやや遅れている。単収は 3 月 7 日時点で 7.80 トン/ヘクタールと、前年度より 17%増となる見通し。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増を受けて前年度より 2.0%増の 5.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、臨時回廊による輸出増を受けて前月予測から 1.5 百万トン上方修正されたものの、2023/24 年度の期首在庫の減少、黒海穀物イニシアティブの停止、主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 9.7%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 9.3%減の 24.5 百万トンの見込み。オデーサ港から陸路を経由せず直接臨時回廊を経由するルートによる輸出も増加しつつあり、中国をはじめとする世界各国への輸出が可能となっている。

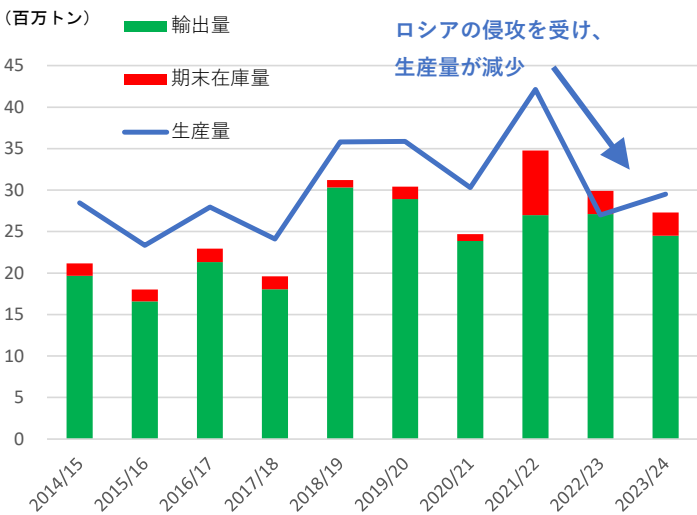
ウクライナ政府等によれば、2023 年 10 月～2024 年 2 月の輸出量は 1,257.8 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、臨時回廊により輸出量が増加（2023 年 7～9 月平均と比較し、月平均で 189.9%増）したものの、黒海穀物イニシアティブが履行されていた前年同時期比では 5.8%減。輸出先国は、スペイン（374.4 万トン）、中国（194.1 万トン）、エジプト（168.8 万トン）、オランダ（117.5 万トン）、イタリア（114.0 万トン）の順。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ及び輸出量の引上げを受けて前月予測から 2.5 百万トン下方修正されたものの、増産による供給増から前年度より 0.7%増の 2.8 百万トンの見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント増の 9.6%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	42.1	27.0	29.5 (30.0)	▲ 1.0	9.3	
消 費 量	8.2	4.9	5.0 (6.3)	－	2.0	
うち飼料用	7.2	4.0	4.0 (4.5)	－	－	
輸 出 量	27.0	27.1	24.5 (19.5)	1.5	▲ 9.7	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	－	－	
期末在庫量	7.8	2.8	2.8 (5.5)	▲ 2.5	0.7	
期末在庫率	22.2%	8.7%	9.6% (21.5%)	▲ 9.4	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	3.80 (4.06)	▲ 0.20	▲ 6.2	
単収(t/ha)	7.68	6.67	7.76 (7.40)	0.13	16.3	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(8 March 2024) IGC 「Grain Market Report」(15 February 2024)						

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2024. 3. 8) をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・フィリピン等で下方修正されたものの、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

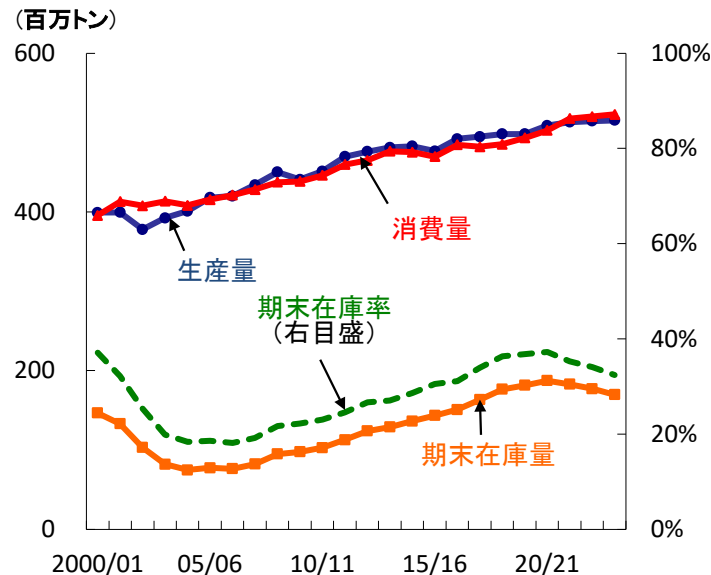
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・パキスタン等で上方修正されたものの、タイやEU等で下方修正され、前月からわずかに下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・パキスタン、タイ、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



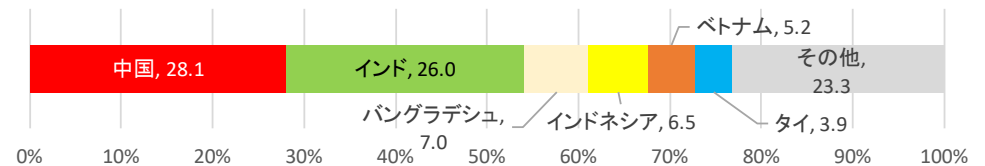
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

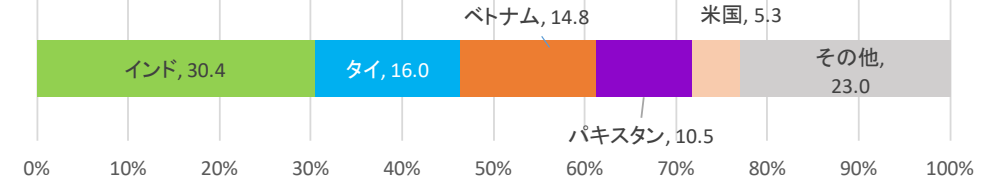
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	513.1	514.6	515.4	1.7	0.2
消 費 量	517.8	520.2	522.9	▲ 0.0	0.5
輸 出 量	56.9	54.3	52.6	1.0	▲ 3.1
輸 入 量	54.5	55.2	50.1	0.8	▲ 9.3
期末在庫量	182.8	177.2	169.7	2.5	▲ 4.2
期末在庫率	35.3%	34.1%	32.5%	0.5	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 March, 2024)

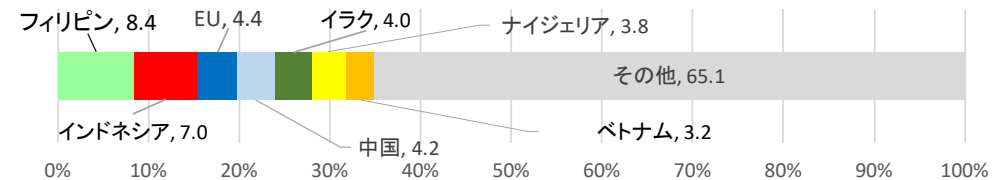
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(515.4百万トン)(単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(52.6百万トン)(単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(50.1百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 2月の降雪で2024年の中・短粒種向け灌漑用水源が補給

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度比36.4%増の6.9百万トンの見込み。特に2年連続の干ばつに見舞われ生産量が激減していた中・短粒種の生産量が2.0百万トンと、前年度比で204.0%に大きく回復することが要因。長粒種の生産量は4.9百万トンと、前年度比で19.8%増加。

カリフォルニア州水資源部によると、2024年の中・短粒種向け灌漑用水源となるシエラネバダ山脈の降雪量は、1月以降降雪があり、2月末には平年の約80%の水準まで回復した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比11.5%増の5.1百万トンと、史上最高の見込み。

2023/24年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、2023年8月～12月にかけてタイ等アジア諸国から食用の香米の輸入が当初予想を上回ったことや、本年1月～7月も輸入が継続される見込みから、前年度比7.9%増の1.4百万トンと、史上最高となる見込み。

2023/24年度の輸出量は、1月下旬からの長粒種の輸出ペースが予想を上回り、本年7月までは同ペースでの輸出が継続される見込みから、前月予測よりわずかに上方修正された。国内生産量の増加と、それに伴う価格競争力の改善から、前年度比36.8%増の2.8百万トンの見込み。2023/24年度(2023年8月1日～2024年2月29日)の主な輸出先国はメキシコ(53.8万トン)、日本(20.7万トン)、ハイチ(20.0万トン)の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.3.8)によれば、3月5日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格は800ドル/トンと、中南米及びメキシコからの需要増大を受け、前月より35ドル/トン上昇した(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入)である中粒種の2月6日までの週の価格は、生産量の増加見込みを受け950ドル/トンと、2023年9月初旬の史上最高値から700ドル/トン下落し、昨年12月上旬以降、2021年5月以来の安値となっている。

期末在庫量は、輸出量の上方修正を受けて、前月予測からわずかに下方修正されたものの、前年度より37.5%増の1.3百万トンの見込み。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

(単位: 百万精米トン)

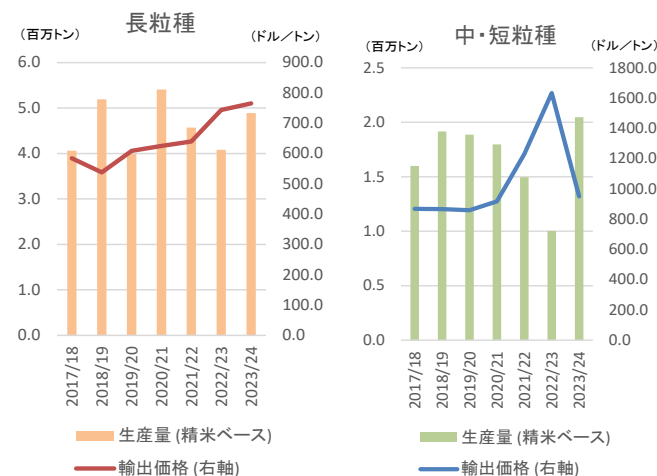
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	5.1	6.9	-	36.4
消 費 量	4.7	4.6	5.1	-	11.5
輸 出 量	2.7	2.0	2.8	0.0	36.8
輸 入 量	1.2	1.3	1.4	-	7.9
期末在庫量	1.3	1.0	1.3	▲ 0.0	37.5
期末在庫率	17.1%	14.4%	16.6%	▲ 0.4	2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	0.88	1.16	-	31.8
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.57	-	3.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March, 2024)

図: 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料: USDA「Rice Outlook」(2024.2.12)より。価格は年度内の平均価格。なお、2023/24年度は2024年2月の価格。

< インド > ラビ米の生育は良好、田植えは2月末までに概ね終了

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測から2.0百万トン上方修正され134.0百万トンと、前年度比で1.3%減も、過去5年平均比で7.2%増の見込み。単収は4.19もみトン／ヘクタールと、前月から0.02もみトン／ヘクタール下方修正され、前年度比1.6%減となったものの、作付面積が48.00百万ヘクタールと前月から1.00百万ヘクタール上方修正され、前年度より0.4%増加したことが要因。

現地情報によると、米の二期作エリアである西ベンガル州では、現在分げつ期にあり、生育は順調とのこと。今年度の田植は2月末までに概ね終了したとみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、政府が11月初旬に、2024年1月以降の穀物配給計画を5年間（2028年まで）延長したことで、人口増加に伴い配給対象者も増加する見込みから、前年度比3.0%増の118.0百万トンの見込み。政府の配給プログラムは8.13億人が対象となっており、コメ等が低所得世帯向けに無償又は低価格で配給される見込み。2023/24年度の調達量は、53～54百万トンと、政府の設定水準（42～44百万トン）を大きく上回る見込み（インド全体の消費量の半分に相当）。

2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、輸出規制強化による直近の輸出量減少で、前年度比21.0%減の16.0百万トンの見込み。ただ依然として世界第1位の輸出シェアを維持しており、約30%を占める。2023年1月から12月までの主な輸出先国は、ベナン（151.9万トン）、サウジアラビア（123.5万トン）、セネガル（93.7万トン）の順。サウジアラビア向けはバスマティ米の輸出が主流となっている。

なお、インドは、非バスマティ米を中心に、2022年9月9日以降、様々な輸出規制を発動・強化している。本年2月21日には、インド財務省が、本年3月31日までの予定だったパーボイルド米の20%の輸出関税を無期限に延長した。詳細は右表を参照のこと。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.3.8）によれば、インド産米（碎米5%混入）の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の2023年7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で最低水準の価格となっていた（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

2023/24年度の期末在庫量は、生産量の上方修正を受け、前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度と同水準の35.0百万トンの見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	129.5	135.8	134.0 (129.3)	2.0	▲ 1.3
消 費 量	110.5	114.5	118.0 (113.7)	-	3.0
輸 出 量	22.0	20.3	16.0 (13.3)	-	▲ 21.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	34.0	35.0	35.0 (36.1)	2.0	-
期末在庫率	25.7%	26.0%	26.1% (28.4%)	1.5	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	46.28	47.83	48.00 (47.70)	1.00	0.4
単収(もみt/ha)	4.20	4.26	4.19 (2.85)	▲ 0.02	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March, 2024)、
IGC「Grain Market Report」(15 February, 2024)（単収は精米t/ha）

表：インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200 ドル/ト→950ドル/トに引き 下げ (2023.10.26))	— 2023.8.27～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は、輸出を許可。
※有機米は本措置の対象外。
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

＜ 中国 ＞ 温暖な気候により広東省等で早稲の播種が進む

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2023年7～9月の豪雨等により東北部(特に吉林省、黒竜江省及び遼寧省)で播種面積が引き下げられたことを受け、前年度比0.9%減の144.6百万トンの見込み。ただし、良好な土壌水分等を受け、単収は史上最高の見込み。なお東北部では、政府による大豆作付推進政策の反動を受けコメ作付面積が減少傾向にある。

東部では、2月下旬に平年より低い気温が続いた後、3月上旬になり温暖な気候となった。南部及び南東部では、3月上旬の週の平均気温が10度を超え、早稲の播種が促進された。東部の福建省等で降雨量が10mm以下と少なかったが、南東部の広東省等では、地域によっては50mm近くの豪雨となった。

中国国家统计局「2023年糧食生産量データ」(2023.12.11)によれば、2023年のコメの播種面積は28.9百万ヘクタールと、前年比1.7%減少した。他方で、単収は、天候に恵まれたことも受けて7.1トン/ヘクタールと、前年比0.8%増加した。生産量(もみベース)は206.6百万トンと、前年比0.9%減少した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこし等飼料用作物の価格低下を受けた飼料用米の需要減少から、前年度比3.3%減の149.9百万トンの見込み。

2023/24年度の輸入量は、インドの輸出規制や国際コメ価格の高騰から、前月予測からの変更はなく、前年度比52.1%減の2.1百万トンの見込み。中国はこれまで、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から砕米を輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度(2021/22年度、6.0百万トン)と比較して65.0%減少している。中国海関統計によれば、2023年12月の輸入量は23.2万トン(前年同月比44.5%減)、同年1～12月の輸入量は263.6万トン(前年同期比58.2%減)となった。輸入国別では、1位がベトナム(35.4%)、2位はミャンマー(19.8%)、3位がタイ(19.7%)の順。

一方、USDAによると、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っており、2023/24年度の輸出量は、前年度比14.9%増の2.0百万トンとなっている。主要輸出先には、同政策の賛同国であるエジプトやトルコ、パプアニューギニアが含まれている。

期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度比4.9%減の101.4百万トンの見込み。ただし、インドの期末在庫量(35.0百万トン)と合計すると世界の期末在庫量の約80%を占める。

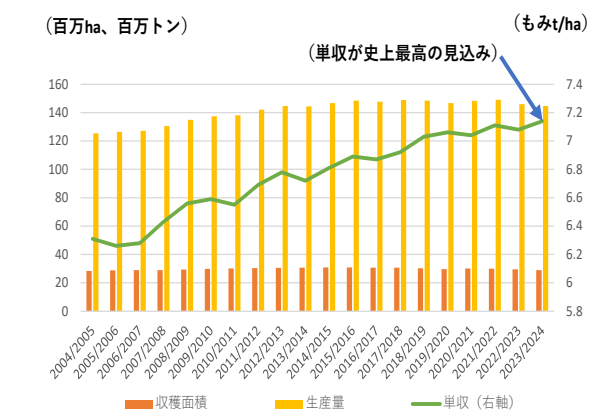
コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	149.0	146.0	144.6 (144.6)	-	▲ 0.9
消 費 量	156.4	155.0	149.9 (148.0)	-	▲ 3.3
輸 出 量	2.1	1.7	2.0 (2.2)	-	14.9
輸 入 量	6.0	4.4	2.1 (2.8)	-	▲ 52.1
期末在庫量	113.0	106.6	101.4 (101.5)	-	▲ 4.9
期末在庫率	71.3%	68.0%	66.7% (67.6%)	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	28.95 (29.45)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.14 (4.96)	-	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March, 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 February, 2024) (単収は精米t/ha)

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2023/24年度)



資料：USDA「PS&D」(2024.3.8)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 乾季米は灌漑用水不足や高温等から減産見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2023年5月から9月中旬にかけての平年を下回る降雨量から、前年度比4.4%減の20.0百万トンの見込み。

USDA及び現地情報によると、11月中旬から続く乾期において、米の主要産地である北部、東北部及び中部では、特に2月に降雨がほとんどなく、降雨量は例年に比べて大幅に少なかった。2月から3月上旬の気温は、タイのほぼ全土で40度近くまで上昇し、4月のような記録的な高温に見舞われた。こうした中、乾季米が作付けされており、灌漑用水が不足する場合は単収減少の可能性がある。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.3)によると、乾季米は穂ばらみ期から収穫期にある。作付面積は1.46百万ヘクタールと、灌漑用水不足や降雨不足から前年よりわずかに減少も、国際価格の上昇期待から、政府計画面積を13%も上回った。水不足や高温に加え、1日の寒暖差が激しかったことから、中央部でイネ白葉枯病が発生し、単収は昨年度より減少する見込み。

USDAによると、2022/23年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、タイ政府による収穫面積の増加見込み(11.07百万ヘクタールと史上最高)等を受け、2021/22年度比5.0%増の20.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、インドネシアの需要増加を受け、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、減産見込みから、前年度比3.9%減の8.4百万トンの見込み。

2022/23年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、2021/22年度比13.0%増の8.7百万トン。

タイ米輸出業者協会によれば、2024年1月の輸出量は、前年同期比17.6%増の94.8万トンとなった。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の17.7万トンから大幅増の29.2万トンと、最大の輸出先国となった。また、エルニーニョ現象による降雨不足で減産が見込まれるフィリピンは、11.3万トン(前年同期0.6万トン)、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは8.8万トン(同7.8万トン)、米国は6.4万トン(同5.2万トン)をそれぞれ輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.3.8)によれば、3月5日までの週のタイ産米(長粒、2等精米)の輸出価格は、新穀の流入から値を下げ、前月から14ドル/トン下落し、616ドル/トンとなった(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。なお、2023年12月中旬以降、不安定な情勢が続く紅海を迂回することによる、欧州や中東向けの輸送コストの増加や輸送日数の増加が懸念されている。

期末在庫量は、輸出量の上方修正から前月より0.1百万トン下方修正され、減産予測から前年度比18.2%減の3.2百万トンの見込み。

コメント

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)					
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)		
			予測値、○はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	19.9	20.9	20.0 (19.7)	-	▲ 4.4
消 費 量	12.5	12.5	12.4 (12.9)	▲ 0.1	▲ 0.8
輸 出 量	7.7	8.7	8.4 (8.3)	0.2	▲ 3.9
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	100.0
期末在庫量	4.1	3.9	3.2 (3.1)	▲ 0.1	▲ 18.2
期末在庫率	20.5%	18.1%	15.1% (14.4%)	▲ 0.6	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.70	11.07	10.65 (11.00)	-	▲ 3.8
単収(もみt/ha)	2.81	2.86	2.85 (1.89)	-	▲ 0.3
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」 (8 March, 2024) IGC 「Grain Market Report」 (15 February, 2024) (単収は精米t/ha)					

表: タイの国別輸出量

(単位:万トン)			
国名	2023年 1月	2024年 1月	増減量
1 インドネシア	17.7	29.2	11.5
2 フィリピン	0.6	11.3	10.7
3 イラク	7.8	8.8	1.0
4 米国	5.2	6.4	1.3
5 日本	5.9	2.9	-3.0
6 中国	3.4	2.6	-0.8
7 モザンビーク	0.9	2.3	1.4
8 南アフリカ	6.0	1.9	-4.2
9 マレーシア	0.1	1.7	1.6
10 カナダ	0.6	1.6	0.9
計	80.6	94.8	14.2 (前年比17.6%増)

資料: タイ関税局 (2024.3)

＜ ベトナム ＞ 南部メコンデルタ地域の冬春作（乾季米）の単収は海水侵入で減少

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が過去最高だった前年度の水準からわずかに減少も、収穫面積の増大により、前年度比 0.2%増の 27.0 百万トンの見込み。なお、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、生産量が史上最高となった 2014/15 年度（28.2 百万トン）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.3）によると、①北部は、冬春作（乾季米）の播種期及び生育初期にある。播種面積は 0.77 百万ヘクタールで、灌漑用水が豊富なことから生育は順調。②南部では、冬春作（乾季米）が収穫期にある。1.88 百万ヘクタールの作付面積のうち、現時点の収穫面積は 0.27 百万ヘクタール（14.4%）。海水の侵入により単収は前年度より減少見込み。現在、メコンデルタ地域の海水の侵入は最大水準となっており、本年 4 月末から 5 月にかけて、高い水準が継続する見込み。晩期の冬春作の 2.9 万ヘクタール以上が海水に浸かると予想される。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、2023 年 12 月 1 日以降、降雨不足で単収減少懸念が生じているフィリピン向け需要増加から、前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、アジア諸国等からの精米輸入需要が落ち着く見込みから、前年度比 5.2%減の 7.8 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸出量は、フィリピンによる史上最高の輸入量の継続見込みや、インドネシアの 2023 年中の追加需要を受け、8.2 百万トンと前年度比 15.5%増で史上最高の見込み。特にインドネシアは、エルニーニョ等によるコメの減産見込みや、燃料価格高騰による投入財費用の高騰から、国内コメ価格が上昇。価格抑制のための在庫放出に加え、低所得世帯へのコメ配給等を受け、政府が設定する最低水準以下に在庫が低下。これを補うため、2023 年（1～12 月）は合計 306.3 万トンを輸入し、うちベトナム産の輸入は 114.8 万トン（37.5%）。なお、2024 年 1～4 月のコメの収穫量も前年比で減少する見込みから、インドネシア政府は合計 360 万トンの輸入枠を決定した。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～2 月の輸出量は 107.5 万トンと、前年同期（89.3 万トン）に比べ 14.4%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（50.0 万トン、124.4%増）、インドネシア（21.9 万トン、152.4%増）、マレーシア（3.8 万トン、212.3%増）、ガーナ（2.7 万トン、408.9%増）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2024.3.8）によれば、ベトナム産米（長粒種、5 %碎米混入）の 3 月 5 日までの週の価格は、冬春作の収穫開始とインドネシアの需要の軟化から、前月の価格より 58 ドル／トン下落し、587 ドル／トンとなった。

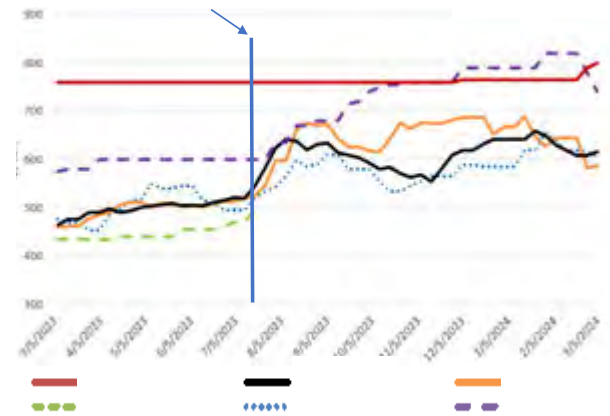
コメーベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年 1月～24年12月)			
			予測値、○はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、○はIGC			
生 産 量	26.7	26.9	27.0 (28.0)		-	0.2
消 費 量	21.4	21.4	21.2 (21.9)		-	▲ 0.9
輸 出 量	7.1	8.2	7.8 (8.0)		0.2	▲ 5.2
輸 入 量	1.7	1.8	1.6 (1.6)		0.2	▲ 11.1
期末在庫量	2.7	1.8	1.4 (2.7)		-	▲ 22.6
期末在庫率	9.3%	6.0%	4.7% (8.9%)		▲ 0.0	▲ 1.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.10	7.10	7.15 (7.11)		-	0.7
単収(もみt/ha)	6.01	6.07	6.05 (3.90)		-	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (8 March, 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (15 February, 2024) （単収は精米t/ha）

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Grain：World Markets and Trade」（2024.3.8）より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・ブラジル、南アフリカで下方修正され前月から下方修正された。史上最高の見込み。

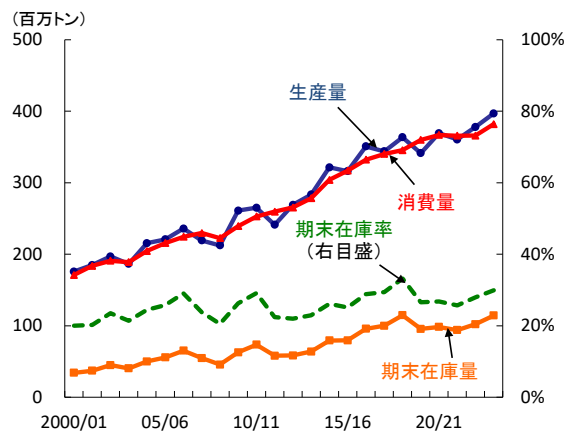
消費量 前年度比  前月比 

・ブラジル等で下方修正され前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・南アフリカ等で下方修正されたものの、ブラジル、ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2024.3.8)をもとに農林水産省で作成

◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

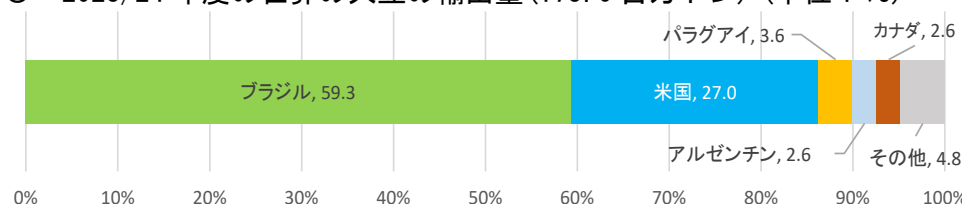
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	360.4	378.1	396.9	▲ 1.4	5.0
消費量	365.8	365.9	381.9	▲ 1.1	4.4
うち搾油用	316.6	315.2	328.2	▲ 1.1	4.1
輸出量	154.2	172.0	173.6	3.0	1.0
輸入量	155.3	168.0	170.8	2.9	1.6
期末在庫量	93.9	102.2	114.3	▲ 1.8	11.9
期末在庫率	25.7%	27.9%	29.9%	▲ 0.4	2.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 March 2024)

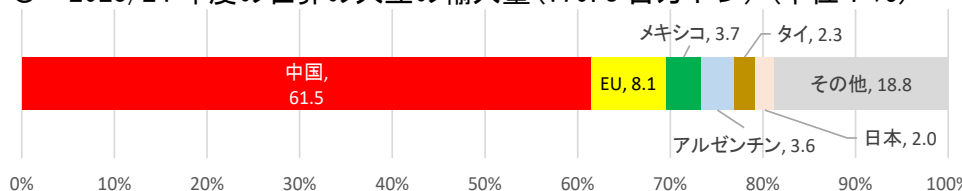
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量 (396.9 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量 (173.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量 (170.8 百万トン) (単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 収穫面積の減少により、生産量は前年度より 2.5%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け前年度より 2.5%減の 113.3 百万トンの見通し。肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けた大豆からとうもろこしへの作付転換により、大豆の収穫面積が減少したとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.8%増の 66.0 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 13.7%減の 46.8 百万トンの見込み。前年度の実産量が史上最高となったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。また、米国国内のバイオ燃料用消費量が増加していることも背景にあるとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の実在庫量は前月予測からの変更はなく、前年度より 19.2%増の 8.6 百万トンとなる見込み。実在庫率は 7.6%で、過去 3 年平均 (6.0%) を上回るものの、過去 5 年平均 (11.0%) を下回っており、引き続き低水準に留まる見通し。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.3.8) によれば、本年 3 月の米国の実大豆価格は、3 月 4 日現在、ブラジルにおける収穫進展による世界的な豊作基調を受けて、前月から 18 ドル/トン下落し 449 ドル/トン。

USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 2 月の実輸出量は 3,410 万トンと、ブラジルとの激しい輸出競争を受けて前年度同時期の 4,145 万トンより 17%減。内訳は中国 (2,126.7 万トン)、メキシコ (284.8 万トン)、ドイツ (146.5 万トン) の順となっている。

USDA によれば、米国政府は、温室効果ガス排出削減のため、様々な原料のバイオマス利用を奨励している。2022/23 年度における主要な植物油のバイオ燃料向け生産量は前年度比 30.8%増の 8.7 百万トン。そのうち、大豆油のバイオ燃料向け生産量は前年度比 20.2%増の 5.7 百万トンで史上最高。2022/23 年度の実大豆油は増産となったものの、国内のバイオマス利用に向けられ輸出量が歴史的な低水準に留まったため、今後も動向を注視する必要。

大豆－米国

(単位：百万トン)

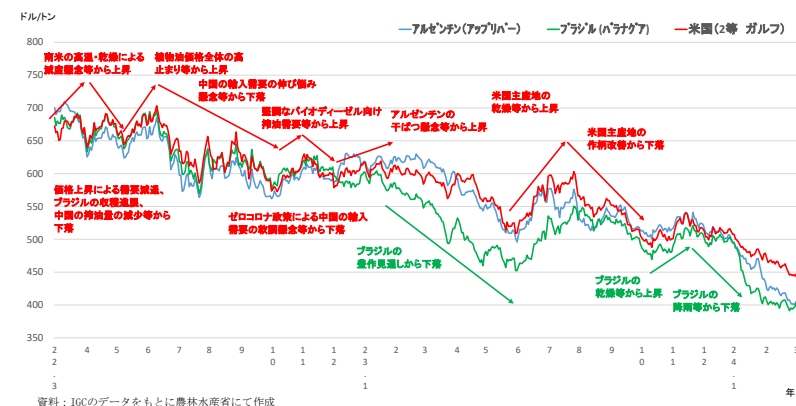
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 9 月～24年 8 月) 予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	121.5	116.2	113.3	-	▲ 2.5
消 費 量	62.9	63.0	66.0	-	4.8
うち搾油用	60.0	60.2	62.6	-	4.0
輸 出 量	58.6	54.2	46.8	-	▲ 13.7
輸 入 量	0.4	0.7	0.8	-	22.4
期末在庫量	7.5	7.2	8.6	-	19.2
期末在庫率	6.2%	6.1%	7.6%	-	1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.92	34.87	33.33	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.40	-	2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



< ブラジル > 2023/24 年度の生産量 (CONAB) は前年度より 5.0%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、主要生産州の中西部パラナ州の収穫量の減少やサンパウロ州での悪天候により、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されて 155.0 百万トン。作付面積は史上最高となるものの、単収が減少することから、生産量は史上最高の前年度より 4.3%減も、引き続き高水準を維持している。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.3.12) によれば、2023/24 年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より 5.0%減の 146.9 百万トンの見通し。主要生産州の中西部マット・グロソ州とパラナ州、南東部サンパウロ州等における降雨不足と高温を受けて、前月予測から下方修正された。

USDA によれば、3 月上旬降雨があり、夏作物の生育に必要な土壌水分量が保たれた。パラナ州の収穫進捗率は 64%と、前年同期 (30%) を上回り、収穫作業が急速に進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、減産による供給減を受けて前月予測から 0.8 百万トン下方修正され、前年度より 0.3%減の 56.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、年度前半の好調な輸出ペースを受けて前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、生産量が 2 年連続で高水準を維持し、価格競争力も高まる見込みから、前年度より 7.8%増の 103.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～2 月の輸出量は 9.5 百万トンで、前年度同時期 (5.9 百万トン) に比べ 61.0%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 (6.9 百万トン)、スペイン (0.4 百万トン)、タイ (0.4 百万トン) の順。大豆収穫後の 3 月となり、輸出最盛期に入っている。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

大豆ーブラジル

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	130.5	162.0	155.0 (150.5)	▲ 1.0	▲ 4.3
消 費 量	54.0	56.9	56.8 (56.5)	▲ 0.8	▲ 0.3
うち搾油用	50.7	53.1	53.0 (53.5)	▲ 0.8	▲ 0.2
輸 出 量	79.1	95.5	103.0 (95.1)	3.0	7.8
輸 入 量	0.5	0.2	0.5 (0.5)	-	200.0
期末在庫量	27.6	37.4	33.1 (1.4)	▲ 3.3	▲ 11.5
期末在庫率	20.7%	24.5%	20.7% (0.9%)	▲ 2.4	▲ 3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.60	44.60	45.90 (41.49)	-	2.9
単収(t/ha)	3.14	3.63	3.38 (3.63)	▲ 0.02	▲ 6.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 February 2024)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実産量は、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年												2024年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 23.4(百万t)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬作計 20.4百万ha												作付 16.4(百万ha)								
大豆	マット・グロソ州、パラナ州等												収穫 146.9(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2024. 3. 12)

< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度より倍増

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥の影響を強く受け大幅な減産となった前年度から回復する見通しから、前年度の 2 倍の 50.0 百万トンの見込み。

2 月 14 日現在、作付けは完了。3 月上旬、生育初期を迎えており、ブエノスアイレス取引所週報（2024.3.14）によれば、3 月上旬、北部及び中部で降雨があり、生育状況は改善している。作柄は、平年並み～良が 84%と、前週より 2 ポイント上昇している。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が回復することから、前年度比 16.9%増の 42.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 32.7%減の 6.1 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 9.8%増の 4.6 百万トンの見込み。

なお、2023 年 1～12 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産を受けて 185.9 万トンで前年度（550.6 万トン）より 66%減。輸出先は、中国（160.6 万トン）、米国（7.5 万トン）、チリ（2.0 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2 %引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大 33%に設定すると発表した。

なお、「OIL WORLD Weekly」（2024.2.2）によれば、政府は、大豆油及び大豆粕の輸出税を 31%から 33%に引き上げることを検討していたものの、農業団体等の強い抵抗を受けて断念し、当面の間 31%のまま維持される見通し。ペソの更なる切下げも見送られている。

大豆ーアルゼンチン

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	43.9	25.0	50.0 (48.0)	-	100.0
消 費 量	46.0	36.6	42.8 (45.8)	-	16.9
うち搾油用	38.8	30.3	35.5 (39.3)	-	17.1
輸 出 量	2.9	4.2	4.6 (5.6)	-	9.8
輸 入 量	3.8	9.1	6.1 (5.7)	-	▲ 32.7
期末在庫量	23.9	17.2	26.0 (8.1)	-	50.8
期末在庫率	48.9%	42.2%	54.8% (15.8%)	-	12.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.90	14.40	16.50 (15.87)	-	14.6
単収(t/ha)	2.76	1.74	3.03 (3.02)	-	74.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (8 March 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (15 February 2024)

写真：北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2024 年 2 月 27 日撮影)



本圃場の大豆は、通常より遅い 11 月中旬に作付された。生育ステージは黄熟期から成熟期にあり、莢付きは良い。単収は、2 月の降雨を受けて、3.5～4 t/ha と比較的高い見込み。収穫作業は 4 月初旬を予定している。

< 中国 > 2023/24 年度の生産量・消費量・輸入量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、中国国家统计局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて前年度より 2.8%増の 20.8 百万トンで史上最高の見込み。

中国国家统计局「2023 年糧食生産量データ」（2023.12.11）によれば、2023 年の生産量は前年より 2.8%増の 2,084 万トン。播種面積が前年より 2.2%増加し、単収も前年より 0.5%増加したことが要因。

2 月 3 日に発表された中国共産党・国务院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な食料需要に加え、国内の畜産物需要から大豆粕需要が増加することから、前年度より 3.4%増の 120.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、ブラジル等の主要輸出国の直近の輸出実績を受けて前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、ブラジルからの輸入増により前年度より 0.5%増の 105.0 百万トンと史上最高の見込み。輸入された大豆は、在庫の増加だけでなく、国内の大豆粕及び大豆油の生産にも向けられるとみられる。

農業農村部によれば、2023 年 1～12 月の輸入量は、前年より 0.4%減の 9,577 万トンと前年並み。内訳は、ブラジル（6,750.0 万トン）、米国（2,309.2 万トン）、アルゼンチン（204.7 万トン）の順となっている。ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占める一方、前年 12 月はアルゼンチン、カナダ、南アフリカからの輸入量が前月から大幅に増加しており（それぞれ 259%増、413%増、前月なし）、輸入国の多様化に取り組んでいるとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、輸入増を受けて前月予測から 1.6 百万トン上方修正され、前年度より 16.2%増の 37.6 百万トンと史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測から 1.3 ポイント上方修正され、前年度より 3.7 ポイント増の 31.2%となる見込み。

大豆－中国

(単位：百万トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	16.4	20.3	20.8 (20.8)	-	-	2.8
消 費 量	110.3	117.5	120.5 (120.5)	-	-	2.6
うち搾油用	90.0	96.0	98.0 (100.0)	-	-	2.1
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	11.1
輸 入 量	90.3	104.5	105.0 (101.8)	3.0	3.0	0.5
期末在庫量	25.2	32.3	37.6 (40.8)	1.6	1.6	16.2
期末在庫率	22.8%	27.5%	31.2% (33.9%)	1.3	1.3	3.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.47 (8.40)	-	-	2.2
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.99 (1.95)	-	-	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 February 2024)

表：中国の大豆輸入量と輸入先国

2023年12月			2023年 1 月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	498.0	50.7	ブラジル	6,750.0	70.5
米国	384.9	39.2	米国	2,309.2	24.1
アルゼンチン	39.0	4.0	アルゼンチン	204.7	2.1
カナダ	37.1	3.8	カナダ	139.4	1.5
南アフリカ	10.8	1.1	ロシア	123.8	1.3
ロシア	10.3	1.0	エチオピア	13.1	0.1
その他	2.2	0.2	その他	36.4	0.4
計	982.3	100	計	9,576.6	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 6.9 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.3.19）によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.7%増、過去 5 年平均比も 6.8%増の 7.0 百万トンの見込み。単収が 3.09 トン/ヘクタールと、前年度並みの史上最高となり、収穫面積が 2.26 百万ヘクタールと前年度より 6.6%増と大幅に増加することによる。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2024」（2024.3.11）によれば、2024/25 年産の作付意向面積は前年度より 1 %減の 226 万ヘクタールとなった。カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部であり、最大生産州のオンタリオ州では前年度より 4.3%増の 121 万ヘクタールとなる一方、マニトバ州及びケベック州では前年度よりそれぞれ 7.2%減の 61 万ヘクタール、3.9%減の 39 万ヘクタールとなり、全体として微減となった。

AAFC によれば、2024/25 年度の実産量は、作付面積が前年より減少することを受け、前年度から 1 %減の 6.9 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微減に留まるとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 12.2%増の 2.9 百万トンの見込み。バイオ燃料需要増による搾油の収益改善が見込まれていることによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による輸出余力の増大を受けて、前年度より 7.3%増の 4.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の 2023 年 8 月～2024 年 1 月の輸出量は 302.0 万トンで、前年度（293.4 万トン）を上回っている。国別では、中国（127.2 万トン）が 40%以上のシェアを占め、次いでイラン（54.6 万トン）、アルジェリア（52.0 万トン）、イタリア（15.0 万トン）の順となっている。

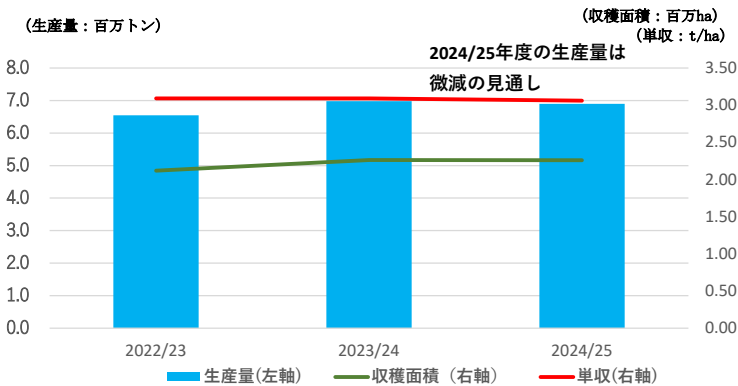
AAFC によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度から 26.3%増の 0.5 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.2	6.5	7.0 (7.0)	-	6.7
消 費 量	2.3	2.6	2.9 (2.5)	-	12.2
うち搾油用	1.8	1.8	1.9 (1.8)	-	6.4
輸 出 量	4.3	4.2	4.6 (4.9)	-	7.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.5)	-	-
期末在庫量	0.4	0.6	0.7 (0.4)	-	4.8
期末在庫率	6.5%	9.5%	9.1% (5.7%)	-	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.08	2.12	2.26 (2.26)	-	6.6
単収(t/ha)	2.99	3.09	3.09 (3.09)	-	-

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(8 March 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 March 2024)

図：カナダの直近 3 か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.3.19)をもとに農林水産省にて作成。